

授業概要

本科目では日本古典文学の主要作品を取り上げ、その作品を丁寧に読む講義を行う。この講義では引き続き『竹取物語』を読む。「物語のいではじめの祖（おや）」といわれたこの物語がどのように生まれどのように後世に影響を与えたかを読みながら考えたい。内容はよく知られているが、文法にこだわりすぎず、じっくりと一つの古典作品を味読する体験をしてもらいたい。その際スタジオジブリの映画『かぐや姫の物語』など最新の資料も適宜活用しながら比較しつつ楽しみたいと思う。

授業計画

| | |
|--------|--------------------------|
| 第 1 回 | オリエンテーション。受講の注意。基礎知識の確認 |
| 第 2 回 | 『竹取物語』全体の概論（主人公・物語構造・話型） |
| 第 3 回 | 『竹姫』（斑竹姑娘：チベット童話）の影響について |
| 第 4 回 | 後続の作品や光り輝くことの意味について |
| 第 5 回 | 講読①かぐや姫の生い立ち―異形とは何か |
| 第 6 回 | 講読②多くの求婚―求婚譚の開始 |
| 第 7 回 | 講読③五つの難題―仏の御石の鉢 |
| 第 8 回 | 講読④五つの難題―蓬莱の珠の枝/ |
| 第 9 回 | 講読⑤五つの難題―火ねずみの皮衣 |
| 第 10 回 | 講読⑥五つの難題―竜の首の珠 |
| 第 11 回 | 講読⑦五つの難題―つばめの子安貝 |
| 第 12 回 | 講読⑧帝の行幸―かぐや姫との対面 |
| 第 13 回 | 講読⑨八月十五夜と天の羽衣 |
| 第 14 回 | 講読⑩富士の煙 |
| 第 15 回 | 全体のまとめ（この物語の怖さ・謎） |
| 第 16 回 | 期末試験 |

到達目標

- ① 古典文学の現代語訳をおおまかにつくることができる。
- ② 古典文学を通して古代の日本の文化や概念を理解することができる。
- ③ 多くの関連資料（史料）を読み解き比較検討することができる。

履修上の注意

- ・ただ出席するのではなくメモをとる積極的な姿勢をもつことを要求したい。
- ・『日本文学史概論（古典）』等古典文学科目は本科目の理解に役に立つので受講しておくことが望ましい。
- ・卒業論文で古典文学を考えている人は履修することが望ましい。

予習・復習

予習：毎回授業の最後に次の授業の参考文献／資料を指示するので、それについて目を通しておくこと。
復習：授業後に残った疑問点は資料を読み毎回持ち越さず解決しておくこと。

評価方法

期末試験（70%）・受講態度（30%）で総合的に評価する。

テキスト

・特に指定しないが、室伏信助（訳注）『竹取物語』（角川ソフィア文庫 2011）などは安価でわかりやすいのでお薦め。大井田晴彦（訳注）『竹取物語』（笠間書院）もよい。